

第 18 回 HAB 研究機構学術年会
主題：動態・安全性研究と臨床開発をどう結びつけるか
学術年会長：山添 康（東北大学）

第 1 日目：2011 年 5 月 20 日（金）

9:05～9:50 特別講演

我が国における早期探索的試験の重要性と課題

小林 眞一先生（聖マリアンナ医科大学）

9:50～12:50 シンポジウム

「トランスポーターからみた医薬品安全性評価」

消化管に発現する薬物トランスポーターと薬効・毒性

玉井 郁巳先生（金沢大学・薬）

腎有機イオントランスポータの機能特性と薬剤性腎毒性発現との関連

増田 智先先生（京都大学・医）

ヒトにおける毒性発現、安全性評価に必要な薬物トランスポーター遺伝子多型解析

家入 一郎先生（九州大学・薬）

悪性腫瘍のトランスポーター：その診断・治療の分子標的としての意義

金井 好克先生（大阪大学・医）

14:20～16:40 シンポジウム

「Humanized hepatocyte の創薬代謝への利用と展望」

PXB マウス由来新鮮肝細胞を用いたインビトロ代謝試験について

安達 弥永先生（積水メディカル）

Characteristics of the human hepatic cells line, HepaRG®, and its application to drug discovery and development.

Christophe Chesne 先生（Biopredic International）

マイクロ空間培養プレートを用いて培養したヒト肝ガン由来細胞の創薬研究への応用

小林 カオル先生（千葉大・薬）

医薬品開発利用を目指した複数遺伝子の搭載可能な改良型ヒト人工染色体（HAC）ベクターの開発

大林 徹也先生（鳥取大学）

17:00～17:45 特別講演

日中韓米の同一プロトコールによる健常者 PK 試験の比較

川合 眞一先生（東邦大学附属大森病院）

18:00～20:00 懇親会

第 2 日目：2011 年 5 月 21 日（土）

9:00～9:30 依頼講演

反応性代謝物とタンパク質との共有結合による毒性発現

池田 敏彦先生（横浜薬科大学）

9:30～11:00 シンポジウム

「薬物誘発性免疫毒性研究の新展開と反応性代謝物の役割」

ダイオキシン受容体の本来的機能：自然免疫における役割

藤井 義明先生（東北大学名誉教授）

薬物性免疫毒性研究の進歩

横井 毅先生（金沢大学・薬）

11:00～12:12 一般講演

血管新生阻害薬 TSU-16 の CYP1A 酵素誘導機構

松岡 和明先生（大鵬薬品工業）

アシルグルクロニドの細胞毒性および遺伝毒性に関する検討大塚製薬株ヒトにおける

in vivo 代謝予測のためのアデノウイルスヒト CYP 発現系の適用 - CYP2C19 と 3A4

を共発現させた HepG2 細胞の酵素キネティック解析 -

加藤 望先生（田辺三菱製薬）

ヒト臨床腫瘍移植マウスモデルによる抗癌剤の in vivo 薬効評価系の構築

廣谷 賢志先生（第一三共）

時間依存的 CYP3A4/5 阻害に関するヒト vitro/vivo 解析の一例

峯松 剛先生（アステラス製薬）

末梢血中肝臓特異的 mRNA の肝毒性バイオマーカーとしての可能性

宮本 実先生（武田薬品工業）

14:00～17:30 市民公開シンポジウム

「うつ病診療の最前線」

変化したうつ病像とその対応

江花 昭一先生（横浜労災病院）

ストレスに負けない - うつ病とレジリエンス -

津久井 要先生（横浜労災病院）

抗うつ剤の進歩

今西 泰一郎 先生（明治製菓株式会社）